



平成28年 3 月 22日発行

## 第 99 号

事務局 〒169-0051 東京都新宿区  
西早稲田2-18-23スカイエスト507  
TEL/FAX 03-6457-3921  
E-mail n.s.e.g@d7.dion.ne.jp  
<http://www.seishineisei.gr.jp/>



### 〈目 次〉

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 日本精神衛生学会第31回大会のお礼……………   | 1 |
| 日本精神衛生学会第32回大会のお知らせ…………… | 2 |
| 日本精神衛生学会第31回大会印象記……………   | 3 |
| 日本精神衛生学会第31回大会に参加して…………… | 4 |
| 事務局報告……………               | 5 |

## 日本精神衛生学会第 31 回大会のお礼

日本精神衛生学会第 31 回大会長  
廣 尚典（産業医科大学産業生態科学研究所精神保健学）

2015 年 12 月 5、6 日の両日、産業医科大学ラマツイーニホール（北九州市）にて、日本精神衛生学会第 31 回大会（事務局長は、真船浩介）を開催いたしました。交通至便とは言えない場所にもかかわらず、149 名の方々に参加いただくことができました。

主題は『働くこととこころの健康』を再考する」とし、大会長の専門領域である産業精神保健を中心に置いて、労働とメンタルヘルスとの関連を多面的にみつめる機会を提供することを意図しました。他方で、守備範囲が広範な分野に及ぶという本学会の特徴を考慮し、他の関連領域の今日的話題を少しずつではあってもできるだけ取り上げたいと考えました。前回の札幌大会では、傳田健三氏の強いリーダーシップのもと、多彩で重層的なプログラムが準備され、すべての参加者がどの時間帯にも興味を持っている事柄を聴くことができるような配慮がなされていましたが、今回はあえて複数のプログラムを同時に走らせることは避け、参加者の多くに普段はあまり接することのない領域にも自然に触れていただけるようにもいたしました。

特別講演は、古山善一氏（労働者健康福祉機構）と重村淳氏（防衛医大精神科学）にお願いしました。

古山氏は、長く労働安全衛生行政に携わってこられ、現在は産業カウンセリング領域の仕事、さらには中小企業を中心としたメンタルヘルス対策の推進・支援活動を続けられています。ご自身の実務経験を交えながら、我が国の労働安全衛生、中でもメンタルヘルスに関する事柄の歴史をわかりやすく整理され、今後の課題についても、貴重な提言をされました。

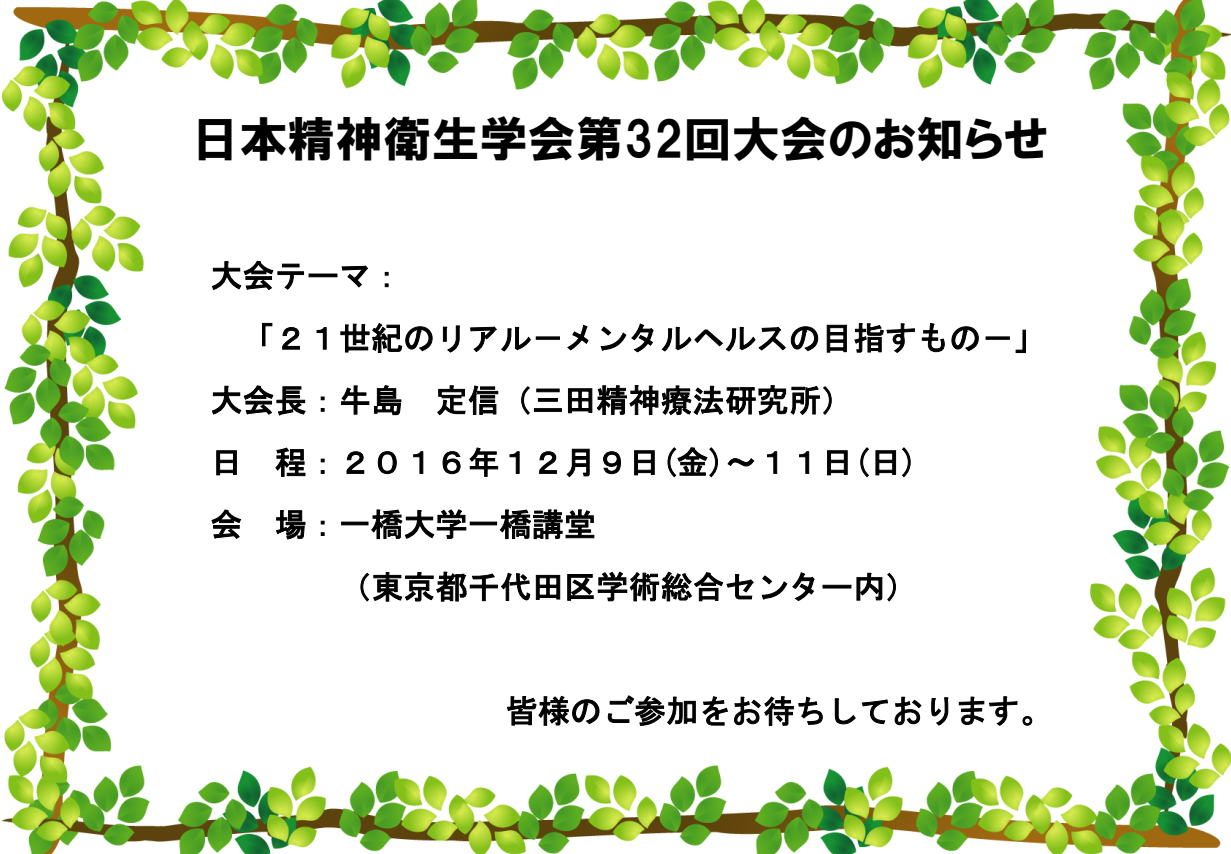
重村氏は、東京電力福島原発の事故が発生した当初から現場に入り、緊急作業員などの精神衛生面の支援に尽力されてきました。同時に、当該作業員のストレスとメンタルヘルスを集団的に評価し、被災労働者のメンタルヘルスに関して重要な報告もされています。今回は、それらの要点を紹介いただきました。

シンポジウムは、企画運営委員のご助力により、『働く』支援を巡って：地域生活支援プロセスのひとつとして」（座長：倉知延章、三井敏子）、「地域に根ざした自殺対策」（座長：影山隆之、中西三春）、「アウトリーチの現状と今後の課題」（座長：佐藤武）（以上、敬称略）の3題を企画しました。11名のシンポジストからの話題提供は、いずれも他の専門領域の参加者にも理解しやすい明快な内容で、各主題の現在を会場全体で共有できたように感じられました。もう少し時間が取ればとも感じられた内容でした。

ワークショップは、職場環境改善（タイトルは「働きやすい職場づくりとこころの健康：実践と研究の連携」）を取り上げました。現在の研究成果の到達点に関する解説の後、3名の演者から実践報告がなされました。

一般演題は、すべてポスター形式としました。当初の予定を上回る20題が寄せられました。毎回のことながら、若い研究者・実践者からの発表が多く、質疑応答も活発で、会場全体が熱気あふれる場となりました。まとまりのよさにはばらつきがみられましたが、逆にそうした点にも、これからの本学会を支える方々の発展、深化が期待される報告ばかりでした。

改めて、学会役員、大会企画運営委員および参加者の方々に感謝いたし、学会開催報告とさせていただきます。



## 日本精神衛生学会第32回大会のお知らせ

大会テーマ：

「21世紀のリアルメンタルヘルスの目指すもの」

大会長：牛島 定信（三田精神療法研究所）

日 程：2016年12月9日（金）～11日（日）

会 場：一橋大学一橋講堂

（東京都千代田区学術総合センター内）

皆様のご参加をお待ちしております。

# 日本精神衛生学会第 31 回大会 印象記

井上嶺子（産業医科大学精神保健学研究室）

第 31 回日本精神衛生学会大会は、平成 27 年 12 月 5 日（土）～6 日（日）の 2 日間、廣尚典先生を大会長として産業医科大学で開催されました。『「働くこととこころの健康」を再考する』をメインテーマに、労働とメンタルヘルスの関連を多面的にみることが核となった大会でした。

1 日目は、ワークショップ「働きやすい職場づくりとこころの健康：実践と研究の連携」、大会長講演「働く人の心の健康を支える」、ポスターセッション（20 演題）、特別講演 1「労働基準監督署の現場から見たメンタルヘルス対策の推移」、特別講演 2「福島第一原子力発電所事故が電力会社職員にもたらした心理社会的影響」と、産業精神保健が中心のプログラムとなりました。

私が 1 日目に特に印象に残ったのは、防衛医科大学の重村淳先生が演者を務められた特別講演 2 でした。福島第一原子力発電所の復旧作業従事者が受けたストレスには、「惨事ストレス」「被災者体験」「悲嘆体験」に加え、社会からの「差別・中傷」があったこと。そして、「差別・中傷」が復旧作業従事者のメンタルヘルスに与えた影響の大きさを検証データで示され、社会が復旧作業従事者に対して「敬意とねぎらい」を与える重要性をお話しされました。重村先生のお話しぶりは冷静でありながらも、メッセージ性の強いものであったと感じました。

2 日目は、シンポジウム 1「「働く」支援を巡って：地域生活支援プロセスのひとつとして」、シンポジウム 2「地域に根ざした自殺対策」、シンポジウム 3「アウトリーチの現状と今後の課題」と、産業保健から地域保健まで幅広い話題が提供されました。

私自身のバックグラウンドが産業保健であることから、地域で展開されている精神保健、精神科の取り組みをお聞きするのは、非常に新鮮なものでした。シンポジウム 2 では座長の中西三春先生が、内閣府で造成された「地域自殺対策緊急強化基金」を、地域自治体が利用し、対面型相談支援事業、電話相談支援事業、人材養成事業、普及啓発事業及び強化モデル事業のいずれかを選択して実施できるという制度のアウトラインをご紹介くださいました。基本的に働ける程度の健康をもつ労働者を対象にしている私の仕事に、シンポジウムの初めには、縁遠いお話に感じられていました。しかし、自治体の方から会社担当者へ自殺予防のための教育の取り組みがあるというご紹介もあり、産業保健領域としても国・自治体のじさつ対策の取り組みをアップデートしておけば、良い連携の仕方が模索できるのではないかと感じました。

同じ心の健康、メンタルヘルスを扱っている領域でも、地域保健、学校保健、産業保健など、こんなに幅の広さを感じるとは思ってもみず、自分が井の中の蛙であることを感じられ、有意義な 2 日間となりました。



## 日本精神衛生学会 第31回大会に参加して

前田桃子（子どもの施設職員 臨床心理士）

わたしは神奈川県にある民間のとある子どもの施設で、子どもの生活支援やケースワークを行っています。高塚雄介先生のご紹介でこの学会に入会してから、毎回楽しく大会にも参加させて頂いております。今回は私にとって4回目の大会参加となり、おかげさまで学び多き貴重な時間を過ごすことが出来たと感じております。

本大会の主題は『働くこととこころの健康』を再考する」でした。私の専門領域とは異なる領域であり、勉強不足であったがために、恥ずかしながら講演内容に難しさを感じることもあったのが正直な所です。ですが、主に十代後半の子ども、若者を対象としている私の職場では、働く事について考える機会が多いため、どの話も興味深く聞かせて頂きました。

アウトリーチに関するワークショップやシンポジウムでのお話からは、環境に直接アプローチをすることの大切さと難しさを改めて感じました。本当に困っている人こそ支援を受けに行くことが難しいという現状がある一方で、活動を展開する際には地域毎の文化や価値観を無視出来ないからです。また、専門家の支援を受けたにも関わらず、困り感が解決しない方も多くいることを知りました。そこから、複雑な社会問題に対応するために自分の専門性を磨くだけではなく、他の領域についても学びを深める必要性を感じました。専門家同士、互いの役割を理解し尊重した上で、自らの専門性に沿った役割を担うことが、難しくも大切だと思っています。

私の職場では、子どもが施設を退所する際、人に頼れるようになることが一つの目標になっています。誰でも、人に頼らずに全てを一人でこなすことは出来ません。ですが、人に頼るという選択肢を知らない、又はその選択肢を選ぶことに抵抗があるが為に、一人で抱え込み、辛い思いをしている子もいます。働くことも同じように、一人で抱え込まずに、互いに頼り相談しあえる関係性を築くことの大切さを、今改めて感じています。

懇親会では、影山隆之先生とお話させて頂いた中で、日本精神衛生学会を百貨店のようだとおっしゃられていたことが印象に残っています。同じ領域、同じ専門家で構成されている学会が大半を占める中、領域も専門性も異なる方同士で構成されている本学会の良さを感じながら、今後も本学会に関らせて頂ければと感じております。本学会のますますの発展を心より祈ります。



# 日本精神衛生学会 事務局報告

2016年3月1日現在

## 1) 会員現況

|                  |      |                 |    |    |    |
|------------------|------|-----------------|----|----|----|
| 2016.3.1 現在会員数   | 正会員  | 595名（不明者58名を含む） |    |    |    |
|                  | 学生会員 | 60名（不明者22名を含む）  |    |    |    |
|                  | 機関会員 | 4機関             |    |    |    |
| 2015.12.1 以降の入退会 | 正会員  | 入会              | 6名 | 退会 | 1名 |
|                  | 学生会員 | 入会              | 0名 | 退会 | 0名 |

## 2) 会費納入について

当学会は、会員の皆さまの会費で運営しております。

2016年度分の会費につきましても、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。

## 3) 会員名簿の整備について

日本精神衛生学会では、「転居先不明会員」「正会員への未移行の元学生会員」等の増加に伴い、会員名簿の見直しを行っております。ご連絡先等、ご変更があった会員の皆さまには、名簿作成用紙のご提出をお願いしております。名簿作成用紙は、当学会ホームページの「会員の皆さまへ」よりダウンロードできます。ご面倒をお掛けいたしますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

学生会員の皆さまには、上記に加えて学生証のコピーもご提出ください。ご提出いただいた学生証は、他の目的で使用することはありませんので、ご了解ください。

その他、ご不明な点がございましたら、事務局までお問合わせください。

## 4) 学会誌購読機関数（2015年度 2016.3.1付 61機関）

|                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 北九州市戸畑看護専門学校 看護師科       | 桜美林学園消費生活協同組合         |
| 京都橘大学図書館                | 株式会社 文進堂書店            |
| 明治学院大学図書館               | 駒沢女子大学図書館             |
| 兵庫医療大学附属図書館             | 中京大学生協プラザ・リーブル        |
| 東京都市大学 世田谷キャンパス図書館 雑誌係  | 北陸学院大学ヘッセル記念図書館       |
| 学校法人 長崎ウエスレヤン大学附属図書館    | 聖路加国際大学図書館            |
| 仁愛大学附属図書館               | (有)書苑                 |
| 兵庫大学 情報メディアセンター(図書館)    | 独協医科大学 廣川書店           |
| 関西医療大学図書館               | 横浜市中心図書館調査資料課         |
| 仙台白百合女子大学図書館            | 国立看護大学校図書館            |
| 奈良市立看護専門学校              | 久留米大学 附属図書館事務部 御井図書館課 |
| 高知大学総合情報センター(図書館) 医学部分館 | 高崎健康福祉大学図書館           |
| 旭川荘厚生専門学院吉井川キャンパス図書館    | 京都文教大学図書館             |
| 横浜創英大学図書館               | 順天堂大学図書館分館            |

花園大学情報センター(図書館)  
新潟県立看護大学図書館  
紀伊國屋書店 海外事業推進室  
岡山県立大学附属図書館  
中部学院大学附属図書館  
医学中央雑誌刊行会 編集部収集採択課  
立教大学図書館 雑誌担当  
関西学院 聖和短期大学図書館  
琉球大学附属図書館  
国際医療福祉大学 福岡保健医療学部図書館  
愛知淑徳大学図書館  
神戸親和女子大学 附属図書館  
島根県立大学出雲キャンパス図書館  
目白大学新宿図書館  
岐阜県立看護大学図書館  
日本出版貿易株式会社 仕入業務部  
関西大学生協書籍部

文京学院大学 本郷図書館  
早稲田大学生生活協同組合 所沢(購買・書籍)店  
福井県立大学附属図書館  
愛知学院大学図書館情報センター 和雑誌整理係  
(株)三省堂書店 横浜営業所  
甲府・明倫堂書店  
丸善 白百合女子大学売店  
札幌学院大学生生活協同組合 書籍部  
有限会社 東邦稲垣書店  
青森県立保健大学附属図書館  
弘前医療福祉大学総合図書館 對馬様  
日本体育大学図書館 山本様  
学校法人東京聖徳学園 聖徳大学図書館  
福島県立医科大学附属学術情報センター  
長崎純心大学早坂記念図書館  
修文大学図書館